

日刊 動労千葉

1988.9.16
No.2892

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）四七二二・七二〇七

9.11 報告 No.2

右翼労戦「統一」反対 全国でたたかう労働運 動を強化・拡大しよう

全造船石川島分会 前委員長佐藤芳夫氏

労働者は奴隷
じゃない

最近、清算事業団の仲間の一部が新しい職
場を斡旋された。その賃金はなんと八万から
十万円。こういうところの企業に清算事業団
の仲間が、仕事が大事だからといって、これ
で喰っていきけるのかどうか。同盟の石川島播
磨労働組の委員長が、首さえ確保されるなら賃
金などどうでもよいという。こういう考え方
は、われわれは絶対容認できない。

三 里 塚 二期 工事 阻止 /
二 里 塚 二期 工事 阻止 /
一 里 塚 二期 工事 阻止 /
も、われわれは絶対容認できない。
三 里 塚 二期 工事 阻止 /
二 里 塚 二期 工事 阻止 /
一 里 塚 二期 工事 阻止 /

民 營 化 /
反 対 /
労働時間、労働諸条件、その他が確保される。
これが雇用の確保であって、首さえ守れば、
労働条件はどうでもよいということではない。
営 業 化 /
反 対 /
労働時間、労働諸条件、その他が確保される。
これが雇用の確保であって、首さえ守れば、
労働条件はどうでもよいということではない。

鉄 道 /
委員長は「雇用を確保し、仕事量を確保する
ために、もっと会社は戦車や兵器を作るべき
ではないか。」こういうことを発表している。
総評の黒川という議長は、天皇が招待する
園遊会にのこのこ行って、天皇に「労働運動
の激励をしていただく」という恥づべきこと
までやってのける。こういう連中が労戦「統
一」を推進している。

「連△口」だって少数派

今日、日本の労働組合は、組織労働者約一
二三四万人といわれている。しかし、未組織
労働者は三二〇〇万人いる。全体の雇用労働
者のなかで、組織労働者は二八％、そして、
昨年の十月に発足した連合は五二九万人、つ
まり全体の雇用労働者に対する組織率は十二

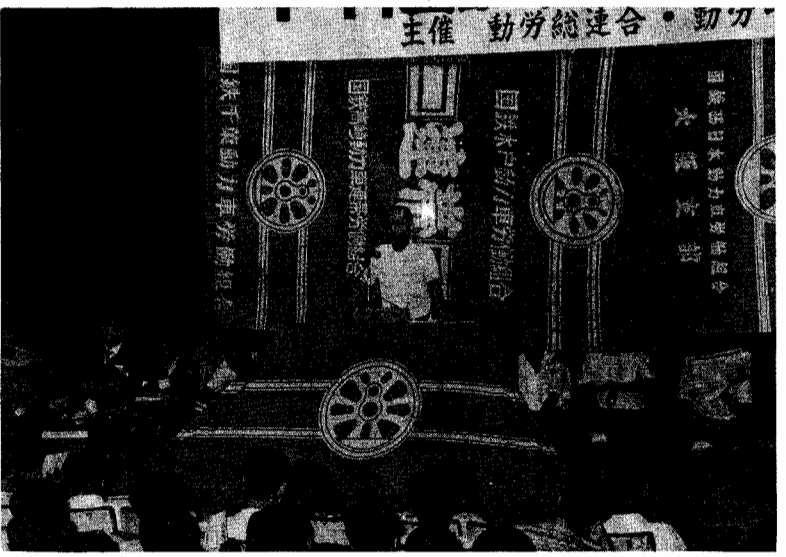
・三％。こういう実態
になっている。
労働戦「統一」を進めた
のは支配者
・資本家ど
も

一 体、彼らはどうし
て労戦「統一」を進めようとしているのか。
これは、最近の歴史的な事情を見ると一目瞭
然である。
一九七五年を前後して、日本は大変な不況
に入っていく。七六年には当時の首相・田中
角栄が汚職事件で逮捕された。
一 国 の 総 理 が 逮 捕 さ れ る と い う 極 め て 重 大
な 事 態 の 中 で、 し か も、 国 際 的 に は 石 油 シ ョ
ック 以 来 の 大 き な 不 況 の 中 で、 当 面 ど う 乗 り
き ら ね ば な ら ない の か と い う こ と に つ い
て 日 経 連 の 当 時 の 会 長 ・ 桜 田 は い る い る 意 見
を い っ た。

桜田は、「今日の日本では、警察権力や裁
判所、あるいは官僚さえしつかりしていれば、
この難局はのりきれる。とりわけ、重大なこ
とは職場における労使関係の安定である。」
そして、今後日本が進むべき道は、
①競争力に弱い生産設備と人員を徹底的に削
減しなければならぬ。
②財政赤字を克服するために行財政の改革で
ある。福祉を切り下げ、国鉄などの公共企業
を勇断をもって改革しなければならぬ。
こうしたことで、日本の安定を守ることが
できる。」と発言している。

最大の狙いは闘う労力組
つぶし

この行財政改革の一環に当然抵抗する労働
組合を叩きつぶすという狙いをもって、とり
わけ国鉄分割・民営化をなによりも重視した。



他人依存主義と決別し、闘う自前の労働運動を全国の産
別、地域でつくり、隊列を強化・拡大しよう（佐藤氏）
別、地域でつくり、隊列を強化・拡大しよう（佐藤氏）
別、地域でつくり、隊列を強化・拡大しよう（佐藤氏）

分割・民営化の最大の狙いは日本の労働運動
戦闘的階級的労働運動を徹底的に解体する。
こういうことであつた。そして、行財政改革
を通じて軍事費を増大させる、軍事大国化路
線をすすめる。こういうことである。
日経連が労戦「統一」
を命じる。

以上のようなことから日経連・日本の支配
者は、労戦「統一」を強く望んだ訳である。
そしてやつらは、一九七八年に鉄鋼労働組
織維労連の幹部を集めて、労戦「統一」を標
唱させよと命じ、八十年に労戦「統一」民間
先行の推進会ができ、八一年にいわゆる民間
先行労戦「統一」に関する基本構想という本
のを発表した。「日本経済の構造的な不況をの
りきるには、なによりも日本の労使関係の安
定が必要である。」こういうことを公然と労
働組合の主張として、労働組合の基本構想と
して労使一体で難局をのりきると言っている
わけです。

労働者にとって国の危機というものはむし
ろ歓迎すべきものである。
私達は、こういう思想に基づく基本構想に
絶対反対しなければならぬ。
すでに、今年の春から夏にかけて各産別の
労働組合が続々と、労戦「統一」に支持の見
解を決定している。
いわゆる左派系組合といわれている全国